



J-BILAT 月刊ニュースレター  
第12号 | 2011年3月

J-BILAT Newsletter  
No.12 | March 2011



## J-BILAT 月刊ニュースレター 第12号 (2011年3月)

### 目次 (Contents)

- 1 解説コーナー その4 : 「People」分野の助成について
- 2 欧州に滞在する研究者向け査証パッケージ (Scientific Visa Package)
- 3 ニュース (News)
  - 3.1 Participant's Portal のリニューアル
  - 3.2 次期研究枠組みに関するグリーンペーパーとパブリックコメント募集
  - 3.3 EUJ 九州の発足  
今後の関連する催し
  - 3.4 J-BILAT 第1回成功事例ワークショップ (情報通信)
  - 3.5 J-BILAT 第2回成功事例ワークショップ (エネルギーと物質科学)
  - 3.6 その他、関連する今後の催しのリスト
- 4 プロジェクトパートナー募集
- 5 日本の機関が関わっている欧州プロジェクト紹介  
その12: HIPプロジェクト
- 6 公募情報
  - 6.1 日本からの応募が可能なFP7公募
- 7 プロジェクトデータベースへの登録のお願い
- 8 欧州連合加盟国紹介 その7 アイルランド



## 1. 解説コーナー その4 : 「People」分野の助成について

本ニュースレターでは、順次 FP7 の仕組みを詳しく解説しています。第8号で紹介した「アイデア (Ideas)」分野の助成に続き、今号では「人材 (People)」分野の助成を取り上げます。



同じく欧州委員会のプログラムで学生や教員の人材交流による高等教育の質の向上をめざすエラスムス・ムンドゥス (Erasmus Mundus) に対し、研究開発に於ける人材育成や頭脳循環を進めるのがマリー・キュリー アクションであり、研究開発そのものを支援する他のプログラムとは異なり、ここでは人材交流や研究者としてのキャリア形成が支援されます。研究者には中小企業を含む産業界の方も含まれ、以下のような機会を提供する事が目的とされています。

- ❖ 初期トレーニング
- ❖ 生涯に渡る訓練とキャリア形成
- ❖ 国際化: “brain drain” ではなく “brain circulation”
- ❖ 欧州全域に渡る研究者の労働市場の形成
- ❖ 中小企業を含む産学連携

マリー・キュリー アクションでは原子力等、EURATOM プログラムで支援される領域を除く全ての研究領域が対象であり、研究者の年齢の上限は無く、出産・育児のためを含む期間の分割も認められています。

マリー・キュリー アクション に関する情報は以下のウェブサイトから得られます。

### Marie Curie Webpage

<http://ec.europa.eu/research/mariecurieactions>

Publications のページからはプログラムを紹介するパンフレット等がダウンロード出来、例えば Marie Curie Actions - Inspiring Researchers という冊子では、マリー・キュリープログラムの実例の数々が紹介されています。

### European Researcher's Mobility portal

[http://ec.europa.eu/euraxess/index\\_en.cfm](http://ec.europa.eu/euraxess/index_en.cfm)

欧州での研究職探しに有用。なお、欧州の研究者同士のネットワーキングを支援するものとして、EURAXESS Links という仕組みが存在し、現在アメリカ、日本、中国、インド、シンガポールにそれぞれ拠点が存在します。EURAXESS Links Japan は以下のウールガー博士により運営されています。

### Lee Woolgar Ph.D.

Information Officer  
Euraxess Links Japan  
Tokyo  
[Lee.Woolgar@euraxess.net](mailto:Lee.Woolgar@euraxess.net)

### List of co-funded Fellowship Programmes

[http://cordis.europa.eu/fp7/people/cofund\\_en.html](http://cordis.europa.eu/fp7/people/cofund_en.html)

COFUND の仕組みを使って作られた助成プログラムのリスト

マリー・キュリー プログラム中には、助成の対象により、以下のような仕組が存在します。なお、表中で使われている下線付きの語句の意味は以下のとおりです。

経験豊富：博士号取得もしくは博士課程入学から数え、少なくとも4年間、フルタイムの研究経験がある

MS：欧州連合加盟国 (Member States)

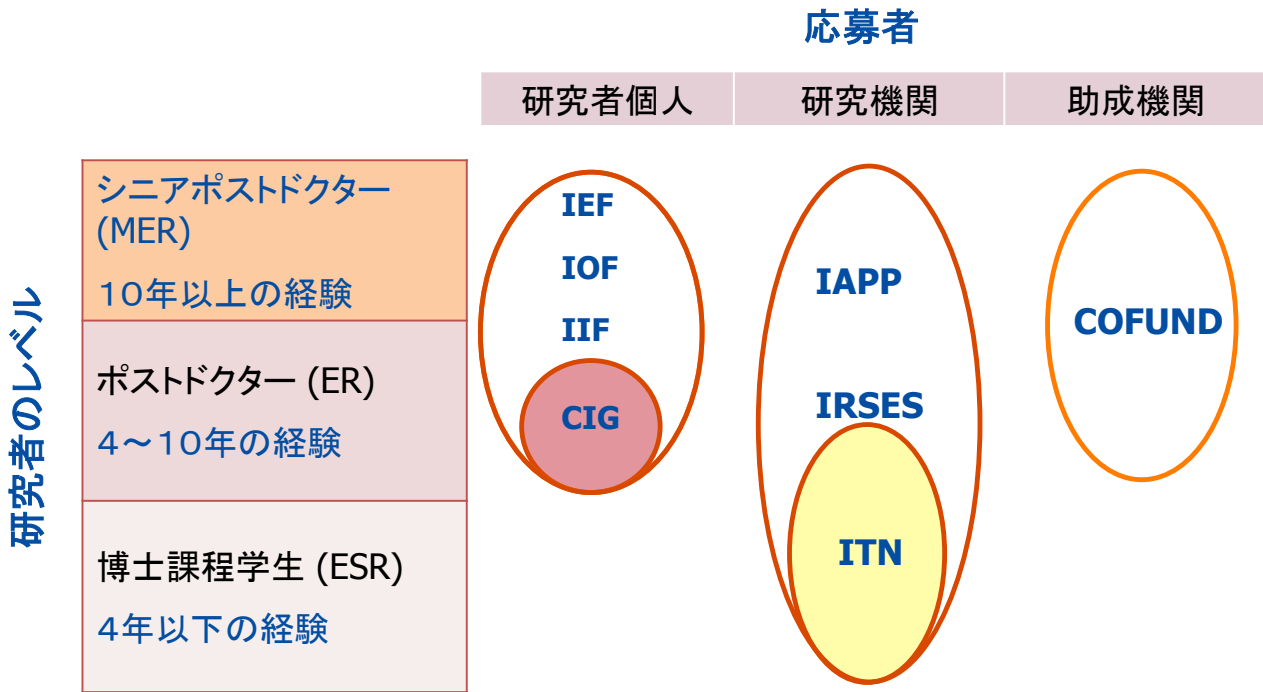
AC：FP7 関連国 (Associated Countries)



略称	名称	対象研究者/ホスト機関 及び 特徴	期間上限
IIF	International Incoming Fellowships	第3国から <u>MS</u> もしくは <u>AC</u> の研究機関や企業に来る経験豊富な研究者向け。特に欧州のホスト機関への知識移転に主眼。	2年
IOF	International outgoing Fellowships	<u>MS</u> もしくは <u>AC</u> から第3国の研究機関や企業に来る経験豊富な研究者向け。特にキャリア形成に主眼。	3年
IEF	Intra-European Fellowships	欧州域内で経験豊富な研究者が移動をし、特にキャリア形成のために何か新しいことに挑戦することを支援。	2年
CIG	Career Integration Grants	国籍を問わず、自分のベースを離れていた研究者が <u>MS</u> もしくは <u>AC</u> において安定した職に就く事を支援。以前は IRG や ERG と呼ばれていたもの。	2-4年
ITN	Initial Training Network	研究を始めて5年以内の若手（主に博士課程在籍中もしくはポスドク）を雇い、トレーニングと国境を越えたネットワーク形成をする。企業の参加が重要。	4年
IAPP	Industry-Academia Partnerships and Pathways	<u>MS</u> もしくは <u>AC</u> にある少なくとも1つの企業と少なくとも1つの非営利機関の参加が必須。その上で第3国からの参加も可能。大企業のみでなく、スタートアップ、スピンオフ等様々な形態の企業の参加が可能。	4年
IRSES	International Research Staff Exchange Scheme	少なくとも2つの <u>MS</u> もしくは <u>AC</u> の機関と日本を含む特定の第3国の機関（1つ以上）の間の相互職員派遣。公的機関もしくは民間の非営利研究機関が参加できる。日本から参加機関は、派遣する職員の渡航費と渡航中の給料を払い続ける必要があるが、比較的予算額が小規模であり、将来の共同研究開発への手掛りとして使い易いと思われる。	2-4年、 個々の派遣者は各1年
COFUND	Co-Funding of Regional, National and International Programmes	公的もしくは民間の助成団体と FP7 による多年次に渡る研究・トレーニングプログラムの共同助成。	



これらを対象となる研究者のレベルと契約上の参加機関とでクラス分けして図示したものが以下です。



**Marie Curie Actions:**

- ❖ 初期トレーニング
- ❖ 生涯に渡る訓練とキャリア形成
- ❖ 国際次元
- ❖ 欧州全域に渡る研究者労働市場
- ❖ 産学連携

- ❖ 異業種連携
- ❖ 欧州全域に渡る研究者労働市場

なお、FP7 全体は欧州委員会 (EC) の研究総局 (DG RTD) が管轄していますが、この分野は教育文化総局 (DG EAC) が担当し、予算の扱いなど実際の運営に関しては研究執行機関 (Research Executive Agency; REA) が受け持っています。REA は EC により政策と実務を切り離すために 2009年に設立された助成機関であり、現在マリー・キュリー アクション の他に Cooperation 分野の 宇宙 (Space) 及び安全 (Security)、Capacity 分野の中小企業の参加する研究において、応募書類の評価プロセスの管理や実際のプロジェクトの予算管理等を行っています。以下のサイトで詳細を知ることが出来ます。

<http://ec.europa.eu/research/rea/>

## 2. 欧州に滞在する研究者向け査証パッケージ (Scientific Visa Package)

マリーキュリーフェローに関連して、欧州に滞在する研究者用の特別査証パッケージ（入国ビザと滞在許可証）にも触れておきたいと思います。

これは法律的には 2005 年に欧州理事会が採択した指令 [EU directive 2005/71/EC](#) 及び 2 つの勧告 ([2005/762/EC](#) と [2005/761/EC](#)) から成っており、2007年の10月12日迄に各加盟国の国内法に組み込むことが求められていました。

指令の第6条に研究者が受け入れ機関と交わすべき合意書、第7条に受け入れのための条件が書かれています。3ヶ月未満の短期滞在と3ヶ月以上の長期滞在の2種類があり、このビザを取得することには、以下のようなメリットがあります。

- ★ 給与や労働条件、社会保障などに関し、受入国の国民と同等の権利が与えられる
- ★ 研究者の家族に関しては、研究者と同じ期間だけの滞在許可が与えられる
- ★ 受入国の教育職に就くことが出来る

但し、指令はイギリスとデンマーク、勧告はイギリス、デンマーク及びアイルランドには適用されないことにご注意ください。

以下のサイトで詳細を知ることが出来ます。

<http://ec.europa.eu/euraxess/index.cfm/services/scientificVisa>

なお、先月号でご紹介した EU2020 のイノベーション・ユニオン イニシアチブでは、欧州連合と各加盟国がトップクラスの研究者、イノベーターを欧州に惹きつけるために包括的な政策を 2012年までに整える事とされています。また2012年の初頭までには、各国での指令への準拠状況がレポートとしてまとめられることになっています。

## 3. ニュース (News)

### 3.1 Participant's Portal のリニューアル

これまで、FP7 の公募に関する情報等は Cordis サイトに発表されてきましたが、現在、以下の Participant's Portal にアクセスすることにより参加者がプロジェクトの構想から応募、遂行に到るまでの全てのプロセスを管理できるように変更が進んでおり、既に2011年の1月から公募情報も同サイトに掲載されるようになっていきます（現在の所、Cordis と両方に掲載）。

<http://ec.europa.eu/research/participants/portal/appmanager/participants/portal>

今年末を目処に、これまで統一して管理されてこなかった各プロジェクトのレポート類（public deliverables）なども同サイトを通じて検索、ダウンロード出来るようになるそうです。

### 3.2 次期研究枠組みに関するグリーンペーパーとパブリックコメント募集

先月号でもお知らせしましたが、パブリックコメントは引き続き求められておりますので再掲します。

欧州委員会から次期研究枠組みに関するグリーンペーパーが出され、次期計画策定のためのパブリックコメントが求められています。5月20日まで、オンライン調査やブログ等の方法で、意見を提出することが可能ですのでお知らせいたします。グリーンペーパーのダウンロード、コメントの提出方法の詳細については以下を御覧ください。

[http://ec.europa.eu/research/csfr/index\\_en.cfm](http://ec.europa.eu/research/csfr/index_en.cfm)

目玉は、これまで欧州委員会 研究総局（DG RTD）の管轄下であった FP7 と、企業産業総局（DG ENTR）が管轄していたより市場化に近い部分を支援する枠組み Competitiveness and Innovation Framework Programme (CIP) のうちのイノベーション部分を統一する方向で進んでいることです。J-BILAT でも、今後の動きに注目していきたいと思えます。

なお、本件に関しては、以下の JST のデイリーウォッチャーのサイトにも日本語での記述があります。

<http://crds.jst.go.jp/watcher/data/20110308-005.html>

### 3.3 EUIJ 九州の発足

EU 研究の拠点となり、政治・経済や科学技術、教育分野での日欧協力・交流の促進をする機関として EU インスティテュート・イン・ジャパン (EUIJ) が存在し、これまでに以下の3拠点が設けられています。

- ◆ EUIJ関西 (神戸大学・大阪大学・関西学院大学)  
<http://euij-kansai.jp/index.html>
- ◆ EU スタディーズ・インスティテュート (一橋大学・慶応義塾大学・津田塾大学)  
<http://www.eusi.jp/>
- ◆ EUIJ早稲田 (早稲田大学)  
<http://www.euij-waseda.jp/>

これらに加え、今月新たに発足するのが EUIJ 九州です。福岡の3大学、九州大学・西南学院大学・福岡女子大学がコンソーシアムを組み、九州EU研究会 及び 九州日仏学館の協力も得て九州エリアにおける EU 研究を促進していかれます。詳細や今後のイベント情報等は、以下のウェブサイトを御覧ください。

<http://www.euij-kyushu.com/jp/EUIJ-Kyushu%20Consortium%20members/index.html>

EUIJ の全体像に関しては、以下の駐日欧州連合代表部のサイトをご参考にしてください。

<http://www.deljpn.ec.europa.eu/modules/network/euij/>

### 今後の関連する催し

#### 3.4 J-BILAT 第1回成功事例ワークショップ (情報通信)

第一回目のワークショップでは、情報通信 (ICT) 分野での日欧間の研究協力をテーマに、詳細な仕組みと事例報告に加えて参加者を交えた議論により連携強化の可能性を探る予定でしたが、延期を致しました。具体的な開催日時についてはまだ決定しておりませんが、できるだけ早い時期で検討しており、確定し次第、ウェブやメーリングリストにて、お知らせを致します。

また、同時開催の予定だった EURASIAPAC セミナーに関しても、同様に延期をされています。



### 3.5 J-BILAT 第2回成功事例ワークショップ（エネルギーと物質科学）

第2回目のワークショップでは、エネルギーと物質科学に於ける日欧連携をテーマに、発足したての EUIJ 九州 他のご協力も得て、以下のようなキーワードにて連携強化の可能性を探ります。

「A. 欧州との連携」「B. 低炭素化」「C. 新エネルギー・新素材」「D. 省エネルギー」

現時点での開催予定は以下のとおりです。

仮題 エネルギーと物質科学分野に於ける日欧連携

日時 5月25日（水）、14時～18時

会場 アクロス福岡（福岡市）

対象 公的研究機関及び企業の研究者、研究担当マネージャー、助成団体関係者等 50-60 名

### 3.6 その他、関連する今後の催しのリスト

主にヨーロッパで今後開催される FP7 関連イベントを出来る限りまとめています。今年6月まではハンガリーが EU 議長国のため、ハンガリーでのイベントが多くなっています。

タイトル	日付	場所	内容、ウェブサイト等
Knowledge transfer as a key tool of innovation in sustainable bio-economy	3-4 May 2011	Budapest	<a href="http://www.tetalap.hu/ktconference/">http://www.tetalap.hu/ktconference/</a> FP7 プロジェクト Knowledge2Innovation によるバイオ経済分野での知識移転に関する会議
Scientix European Conference	6-8 May 2011	Brussels	(On science education projects in Europe) <a href="http://www.scientix.eu/web/guest/conference">http://www.scientix.eu/web/guest/conference</a>
eHealth week	10-12 May 2011	Budapest	<a href="http://www.worldofhealthit.org/">http://www.worldofhealthit.org/</a>
European Perspectives in Personalised Medicine	12-13 May 2011	Brussels	<a href="http://ec.europa.eu/research/health/events-06_en.html">http://ec.europa.eu/research/health/events-06_en.html</a>
Future Internet Week	16-19 May 2011	Budapest	<a href="http://www.fi-budapest.eu/">http://www.fi-budapest.eu/</a>
ICT Proposer's Day 2011	19-20 May 2011	Budapest	<a href="http://ec.europa.eu/information_society/events/ictproposersday/2011/index_en.htm">http://ec.europa.eu/information_society/events/ictproposersday/2011/index_en.htm</a>
FP7 Health - Open Information Day & Brokerage event	6-10 June 2011	Brussels	<a href="http://ec.europa.eu/research/health/events-05_en.html">http://ec.europa.eu/research/health/events-05_en.html</a> 医療分野での FP7 プロジェクト参加や 2012 年の助成について
The 3rd Annual Internet of Things Europe 2011 Conference,	28-29 June 2011	Brussels	<a href="http://www.eu-ems.com/summary.asp?event_id=70&amp;page_id=495">http://www.eu-ems.com/summary.asp?event_id=70&amp;page_id=495</a>

#### 4. プロジェクトパートナー募集

ワイヤレス イアフォン (Wireless Audio Earpiece (WAE)) に関する FP7 プロジェクト申請のために、イギリスの企業 Auriplex Ltd が日本からの参加企業を探しておられます。プロジェクトは2つの部分からなり、以下の2つのコンソーシアムを形成される予定だそうです。条件に当てはまり、参加を検討されたい方々は、J-BILAT までご連絡をお願いいたします。

1. イアフォンに関するテクノロジーのためのコンソーシアム  
(Earpiece technology consortium)
2. 携帯用デバイスとワイヤレス イアフォンテクノロジーの日本の家電オーディオ製品への組み込み  
(Portable device WAE technology integration within Japanese audio consumer devices)

##### 求められている業種：

携帯電話メーカー、携帯音楽プレーヤーのメーカー、もしくはワイヤレス イアフォンの恩恵を受けられる他の職種

コーディネーターとなる Auriplex Ltd 社のウェブサイトでは、社の誇る iEar 機能（サラウンド機能と指向性を備えたワイヤレス イアフォンと最大 25 m の距離まで離して使える送信機の組み合わせ；ケンブリッジ大学との共同開発）やそれを備えた製品の紹介がされています。

<http://www.auriplex.com/>

なお、他にもこのような依頼がありましたらニュースレターや件数によってはウェブにて公開したいと思っておりますので、ご遠慮なくご要望をお聞かせください。

## 5. 日本の機関が関わっている欧州プロジェクト紹介 その12

### HIP プロジェクト



### Hybrid Information processing

プロジェクト名	Hybrid information processing
短縮名	HIP
契約番号	221889
プロジェクト開始日	2008年11月1日
期間	36 ヶ月
助成金	2,010,000 ユーロ
ウェブサイト	<a href="http://www.dmi.unisa.it/HIP/index.html">http://www.dmi.unisa.it/HIP/index.html</a>

先号に引き続き、第 12 回も情報通信 (ICT) 分野のプロジェクト、Hybrid information processing (ハイブリッド量子情報処理)、HIP プロジェクトを取り上げます。

このプロジェクトは 情報通信分野の中でも特に「未来・新進技術 オープンプログラム (Future and Emerging Technologies Open Scheme)」という、特にリスクの高い、かつICT 分野に劇的な変革をもたらす基礎的研究を支援するプログラムの支援を受けておられます。コーディネータはイタリアの サレルノ大学 (Università degli Studi di Salerno)で、以下が全参加機関のリストです。

参加機関名	国名
Università degli Studi di Camerino / カメリーノ大学	イタリア
The University of Queensland / クイーンズランド大学	オーストラリア
Imperial College of Science, Technology and Medicine / インペリアル・カレッジ・ロンドン	英国
The University of Leeds / リーズ大学	英国
Fyzikálny ústav Slovenskej akadémie vied (Institute of Physics, Slovak academy of science) / スロバキア科学アカデミー 物理学研究所	スロバキア
Research Organization of Information and Systems / 情報・システム研究機構	日本
Ruprecht-Karls-Universitaet Heidelberg / ハイデルベルグ大学	ドイツ
Technische Universitaet Wien / ウィーン工科大学	オーストリア

日本からの参加者は、情報・システム研究機構の 根本 香絵 教授のグループです。以下、写真も含め、ご寄稿を頂いた文章をそのまま掲載いたします。

HIP プロジェクトが目指すのは、簡単な原子・光子ハイブリッド素子の実験的実現とそれらの素子を用いたシステム構成のための理論を構築することです。量子情報処理の研究では、基本演算を行う素子をどのように設計すれば、情報処理システムへとスケールアップできるかが大きな焦点のひとつになっています。まず、正確に動作する素子の実現化や、素子間の通信方法等が大きな課題であり、さらにこれらの素子の集まりである全体が量子コンピュータとして機能するような拡張性をも同時に満たすのも大きな困難です。本プロジェクトはこれらの課題に挑戦するものであり、この分野での貢献が期待されているゆえんです。

HIPプロジェクトは2008年に始まりましたが、私はその1年以上前から立ち上げに関わり、トピックの焦点や、メンバーの選考など、アイデアを出し合いながらプロジェクトへとまとめて行きました。自分たちがやってきた研究成果ことはあくまで「を土台」であり、これからに新しいプロジェクトをとして立ち上げていくんだという姿勢が、まずは大切です。には、やはり欧州から見て距離を感じない研究活動が必要と思います。EUプロジェクトは日本の諸研究制度と比べても選考も審査も厳しいという反面ですが、プロジェクトのゴールへ向けて十分に活躍する場が与えられているという利点があると言えるでしょう。また実際の運営では、事務上の問題と日本の研究費の現行制度そのものを含めた事務上の問題が、まだまだ障壁壁となってくるケースが多いというのが実感です。いるのが現状と思います。私の場合は、事務の担当者と密に連携し、英語でやってくるでの書類のやりとりを一緒にと格闘して乗り越えていきまいただきました。特に法的手続きでは大学事務では難しい面もあるため必要なサポートを外部に求めるのも解決策ではないでしょうか。事例が増えることで、大学、研究所でのノウハウも蓄積されていくことを期待しています。



根本グループの詳しい研究内容につきましては、以下のリンクをご参照ください。

NII QIST web site

<http://www.qis.ex.nii.ac.jp/index.html>

## 6. 公募情報

ニュースレター発行時点での最新の情報をお送りしております。  
FP7 に関する日欧共同公募は現在出されておられません。

### 6.1 日本からの応募が可能なFP7公募

この他に、以下のFP7の公募が利用できます（毎号随時アップデートしております）。緑色のものは、特に日本からの参加をターゲットにした部分のある公募や日本からの参加者・機関に助成金の出る可能性のあるもの、ピンクのものは前号から新たに付け加わったものです。

プログラム	公募番号	応募締切	含まれるテーマ	Comments
Cooperation	<a href="#">FP7-ENERGY-2011-2</a>	07 April 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	Energy	See also SET-Plan (Technology Roadmaps and Implementation Plans of the European Industrial Initiatives)
Cooperation	<a href="#">FP7-ICT-2011-C</a>	12 March 2013 at 17:00:00 (Brussels local time) - For Batch_15 STREP and CSA 25 September 2012 at 17:00:00 (Brussels local time) - For Batch_14 STREP and CSA 10 April 2012 at 17:00:00 (Brussels local time) - For Batch_13 STREP and CSA 25 October 2011 at 17:00:00 (Brussels local time) - For Batch_12 STREP and CSA 17 May 2011 at 17:00:00 (Brussels local time) - For Batch_11 STREP and CSA	Information and Communication Technologies	Proposals for the FET Open scheme can be submitted at any time
Cooperation	<a href="#">FP7-SST-CIVITAS-2011-MOVE</a>	12 April 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	Transport Sustainable Surface Transport - MOVE	2011年2月17日にFAQがアップデートされています。
Cooperation	<a href="#">FP7-ICT-2011-SME-DCL</a>	First stage (short proposals): 28 April 2011, at 17:00.00 Brussels local time Second stage (full proposals): 28 September 2011, at 17:00.00 Brussels local time	Information and Communication Technologies	SME Initiative on Digital Content and Languages (日本からの参加がどの程度奨励されているかは現時点では不明)



プログラム	公募番号	応募締切	含まれるテーマ	Comments
Ideas	ERC-2011- AdG_201104 06	6 April 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	ERC	Social Sciences & Humanities (Panels: SH1 – SH6) 上級研究者向け
Ideas	ERC-2011- PoC	15 June 2011 at 17:00:00 (Brussels local time) 08 November 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	ERC, proof of concept	既に ERC 助成を受けてい る研究者が研究により得ら れた革新的技術他の実証を するための助成
People	FP7- PEOPLE-2011 -CIG	6 September 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	Marie Curie career integration grants	Career Integration Grants 研究者がホスト機関 と共に応募
People	FP7- PEOPLE-2011 -IIF	11 August 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	Marie-Curie International Incoming Fellowships	日本の機関に所属する研究 者が欧州に行く場合はこち らを検討
People	FP7- PEOPLE-2011 -IEF	11 August 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	Marie Curie Intra-European Fellowships	欧州の機関に所属する日本 人研究者はこれを検討の事
People	FP7- PEOPLE-2011 -IOF	11 August 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	Marie Curie International Outgoing Fellowships	欧州の研究者を日本に受け 入れる場合 (但し、参助成 は欧州研究者の派遣元機関 にされる)。EU加盟国もし しくはFP7関連国で5年以上研 究をしておられる日本人研 究者も対象
Euratom	FP7- Fission-2011	7 April 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	Nuclear Fission and Radiation Protection	

何かご質問等ありましたら、J-BILATにお知らせくだされば、できる範囲でお答え致します。また、ご応募の後に採択された場合など、ぜひご参加に至る過程や実際のプロジェクトの様子など、体験をお寄せいただければと思います。次年度以降のセミナーやワークショップで、共有したいと思います。

## 7. プロジェクトデータベースへの登録のお願い

プロジェクトに関する情報をお送りするために、データベースへの登録をお願いしております。プロジェクトウェブサイトからの登録に加え、メールやファックスにて、以下の情報をお送りいただいても結構です。

<http://www.j-bilat.eu/registration/>

Registration for the project database can be done through the following website, or by sending the information listed below to the project manager.

<http://www.j-bilat.eu/registration/>

- Title (Mr. Ms. Dr. Prof.)
- Surname 姓
- Name 名前
- Position 役職
- Affiliation 所属
- Mailing address 所属先住所 (optional)
- E-mail address メールアドレス
- Telephone No. 電話 (optional)
- Fax No. ファックス (optional)
- Area of interest (multiple choice from the following list:

Health; food, agriculture and biotechnology; information and communication technologies (ICT); nanosciences, nanotechnologies, materials and new production technologies; energy; environment (including climate change); transport (including aeronautics); socio-economic sciences and the humanities; security; space; other “ ”

### 興味のある分野（複数可）

保健・食料・農業・漁業・バイオテクノロジー・情報通信技術・ナノ科学及びナノテクノロジー・材料及び新生産技術・エネルギー（原子力を除く）・環境（気候変動を含む）・運輸（航空を含む）・社会経済科学及び人文科学・宇宙・安全・原子力・その他 「 」

## 8. 欧州連合加盟国紹介 その7 アイルランド

欧州連合加盟国の特に研究開発に関し、順次簡単な紹介をしています。

漢字表記：愛蘭土（略称 愛）
面積：70,273 平方キロ
主要都市：ダブリン（首都）、コーク、リムリック、ゴールウェイ
人口：467 万人（2009）
公用語：アイルランド語、英語
宗教：カトリック 87% 他
名目GDP：208.3 bn USD (2009) 産業構成GDP: 農業：2% 工業：29% サービス業：70%
科学・技術： 国全体の研究開発支出（Gross Domestic Expenditure on R&D；GERD）：GDPの1.43% (2008) 研究開発費の出所 政府 33.4%      民間 49.1%



アイルランドの科学・技術は、企業貿易産業省の下 The Office of Science, Technology and Innovation (OSTI) が管轄しており、

<http://www.deti.ie/science/technology/>

基礎科学への助成は、OSTI 下のアイルランド科学財団（Science Foundation Ireland; SFI）が行っている。

<http://www.sfi.ie/>

以下のサイトではアイルランドの科学関連のニュースを提供している。

<http://www.science.ie/>

アイルランドは1990年代にソフトウェア産業により急成長を遂げたが、コーク周辺のバイオクラスター、ゴールウェイを中心とする地域の医療機器関連クラスターでも知られる。

(出典: CIA Factbook, Wikipedia, OECD他)

### 日本におけるFP7情報サービス事業(J-BILAT)

事業名	BILAT in Japan	省略形	J-BILAT
開始日	2010年1月1日	契約書番号	244310
期間	36 ヶ月	予算	612,090 EUR (内 FP7 助成金が500,000 EUR)

本ニュースレターに含まれるFP7関連その他の情報は得られた時点で最新のものを正確にお伝えするよう努めておりますが、意見等は関係機関の公式見解を表わすものではなく、また本文に EU の公式文書その他の日本語訳が含まれる場合にも、原典と同等の内容の正当性を保証するものではありません。本ニュースレターに関するご意見・ご要望・配信の停止等のお問い合わせは、右記の担当 市岡までお寄せ下さい。

Fabrizio Mura  
 プロジェクト代表  
 E-mail: fabrizio.mura [at] eu-japan.gr.jp  
 市岡 利康  
 プロジェクトマネジャー(J-BILAT担当)  
 E-mail: toshiyasu.ichioka [at] eu-japan.gr.jp  
 日欧産業協力センター  
 〒102-0082 東京都千代田区一番町13-3 ラウンドクロス一番町4階  
 Tel.: +81 - (0)3-3221-6161  
 Fax: +81 - (0)3-3221-6226



J-BILAT is on twitter

© 日欧産業協力センター  
 EU-Japan Centre for Industrial Cooperation  
 編集: 市岡利康